

# 社会とのきずなの大切さを あらためて考えつつ 企業としての使命を 着実に果たしていきます。



荒川化学工業株式会社  
取締役社長

谷奥 勝三

## 社会から、 これまで以上に親しまれる会社を目指して

この度、当社の代表取締役役に就任しました谷奥勝三です。「第3次中期経営計画」が新たにスタートする本年、社長に指名されました。目まぐるしく移り変わる経営環境にあって、会社トップとしての重責を肝に銘じて、使命を着実に果たしてきたいと考えています。

私は当社に入社して34年になります。これまで製品の開発や事業部の運営を通じて業務の遂行にまい進してきました。当社の経営理念は「個性を伸ばし、技術とサービスで、みんなの夢を実現する」です。長年の仕事を通じて、当社はまさに従業員の「個性を伸ばす」会社であると感じています。

これからの時代、事業をグローバルに展開していく中で、この経営理念を広く敷延させていくため、第3次中期経営計画のスタートにあたり、新たなビジョンを作りました。それが「つなぐを化学する SPECIALITY CHEMICAL PARTNER」です。当社の製品は社会の至るところで用いられている一方で、一般の方からは「分かりにくい」「顔が見えにくい」と指摘されます。そこで製品の特徴をよりわかりやすく伝えていくとともに、お客様をはじめとして従業員や株主の皆様、そして社会の皆様との“つながり”を大切にしていこうと姿勢をビジョンに込めました。

〈経営理念〉

**個性を伸ばし  
技術とサービスで  
みんなの夢を実現する**

●

〈ビジョン〉

**つなぐを化学する  
SPECIALITY CHEMICAL PARTNER**

●

〈第3次中計 キャッチフレーズ〉

**グローバル140**

## 東日本大震災を通じて 「つなぐ」ことの大切さを認識

社会のさまざまな方々との“つながり”を強く意識するきっかけとなったのが、東日本大震災です。当社では福島県にある小名浜工場が被災しました。当時、私は震災の対策本部長を務め、工場の復旧を指揮しました。その際、従業員が一致団結して救援物資の確保や運搬に尽力し、震災の翌日には現地に物資を届けることができました。また、原発事故に伴い従業員やその家族の避難先を迅速に確保したことで、現地従業員が安心したと聞いています。さらに、お客様や仕入れ先、物流会社の皆様などの協力を得て、製品の供給不足を最小限に抑えることができ、企業としての使命を果たすことができました。こうした経験を通じて、私は当社を支える数多くの人々との“つながり”に対して、感謝の気持ちを強く抱くようになったのです。

企業経営の中では近年、BCP(事業継続計画)の必要性が唱えられています。そこで大切なことは、日頃、当社に関わる人々との“つながり”を重んじつつ、いざという時には従業員一同、同じ思いで考え、行動できる企業風土を醸成することにあると感じています。また、これが当社の強みであり、今後いかなる事態に直面しても社会的使命を果たせる企業を目指していきます。

## 製品の供給を通じて世界での貢献を 追求していきます

「第2次中期5カ年経営計画」が完了した今、この5年間を振り返ってみますと、経営環境の変化は目をみはるものがあります。計画当初の2008年時点、業績は好調でしたが、いわゆるリーマンショックや急激な円高、そして東日本大震災などの事態が相次ぎ、国内市場は低迷しました。また、IT(情報技術)の進展を背景に、出版・印刷業界の需要が落ち込んだことも、当社にとってはマイナス要因となりました。

こうした事態に対して、当社では事業を海外にシフトする一方、成長分野への大型投資を実行し、新たな成長に向けた取り組みをおこなってきました。その成果は「第3次中期経営計画」の中で実現していく予定です。今回、経営計画を5年ではなく



て3年としたのは、投資を早期に回収し、新たな成長軌道に乗るという意志を示すためです。

今後3年間でアジアの市場で確固たる地位を獲得するとともに、さらにその後の5年間で、ワールドワイドで事業を展開する、真のグローバル企業へと脱皮します。世界に向けた展開の中では、事業がいかに拡大したとしても企業グループを一つにまとめる「求心力」が必要です。そのために、当社がこれまで140年近くにわたって培ってきた風土を具現化した「個性を伸ばし、技術とサービスで、みんなの夢を実現する」の経営理念を荒川化学グループ全体に浸透させ、世界に向かって発信していきます。

事業を通じてグローバルでの貢献とともに、私が重視するのは製品の安定供給という使命です。これまで生産拠点の分散化を図るべく、設備投資を積極的に進めてきました。取り組みの過程では、東日本大震災の直前に小名浜工場の生産機能を一部、大阪工場内にも増設して2拠点体制としました。これが奏効して、震災直後も製品の供給を続けることができました。こうした投資はすぐに利益につながるとは限らないものの、想定外の非常事態には強いとあらためて実感した次第です。現在、当社では全社規模でBCPの策定を進めています。これによって、あらゆる非常事態をはじめ、経営環境の変化に柔軟に対応できる体制を整えていきます。

## 安全に対する意識を全社で あらためて高めていきます

近年、国内において化学工場での事故が散発しています。当社においても2013年1月に大阪工場の研究工場内で発煙事故が生じました。出火には至らず、人的および物的被害はなかったものの、近隣の皆様ならびに関係者の皆様には多大なご迷惑、ご心配をおかけし、深くお詫び申し上げます。

今回の事態を受けて、当社では安全管理の見直しを進めています。これまで生産現場での安全管理には万全を期してきたという思いはあるものの、ヒューマンエラーを完全になくせるものではなかったということです。今後、設備の改善はもちろん、従業員の安全教育を通じて「現場力」の向上を図り、安全に対する意識を全社で高めていきます。

当社製品の主原料であるロジンは、松の木から採取・精製して得られる天然樹脂のため、資源循環型の原料といえます。この特性を活かしつつ、当社は地球環境に貢献できる製品づくりをこれまで以上に進めていきます。現在、当社ではISO14001の認証を取得済みの工場に加えて、他事業所でも環境マネジメントシステムを立ち上げて、全社規模で進めています。これによって、環境保全に対する意識をさらに高め、環境重視の視点も加えて事業全体を構築していく考えです。2013年度の指標は「心をつなぐ 本気と本音 グローバルで本番勝負」としました。事業を通じて環境面に貢献し、世界のお役に立つ企業を目指して「本気」で取り組んでいきます。どうぞこれからも荒川化学グループにご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。